

ESD 推進ネットワークの達成目標に照らした成果概要（案）

2019年2月7日

ESD 活動支援センター

本資料は、2019年1月末現在入手可能なデータを基に、ESD 推進ネットワークの成果目標、達成目標に照らした成果の概要をまとめたものである。成果目標、達成目標に照らした詳細なデータは本資料の別添として添付されているので、そちらを参照されたい。本資料は、今後、その時点で入手可能なデータをもとに随時改訂していくものとする。

1. 情報

「ESD 活動支援センター（全国・地方）が収集、整理、蓄積、共有する情報が ESD を深めるために（質的向上）、また広めるために（量的拡大）、有用なものになっている。」との成果目標に関し、

- ① 2017年度地域 ESD 拠点に対するアンケート結果からは、利用者にとって情報は役に立っているとの問に対する上位2項目（とてもそう思う、そう思う）の回答は合わせて56%で目標の2/3に達していない。これは、地域 ESD 拠点の登録を開始してから間もない（5か月）ことも一因と考えられるため、このデータは経年変化をみるためのベースラインデータとして活用することが適切と考えられる。
- ② ウェブサイトでの発信に関しては、2017年度全国センター発信件数が351件、地方 ESD 活動支援センター発信件数は合計で534件であった。また、全国センターウェブサイトへのアクセス数はトップページのみで11,299件、すべてのページ合計で45,160件、地方 ESD 活動支援センターウェブサイトアクセス総数は、トップページのみで16,718件であった。今後、これらの発信数、アクセス数をベースラインデータとして、その経年的な変化について分析・評価することが望まれる。
- ③ ESD に関する国、国の審議会等の重要な決定、ESD に関する重要なイベント情報、ESD に関する重要な報告については、基本的な情報は発信できたと考えられる。また、重要イベントの年間カレンダーを作成・更新し、公開した。引き続き、ESD 関係省庁連絡会議、ESD 円卓会議、SDGs 推進本部関係会議等の発信を継続するとともに、国際関係の情報の発信を強化する必要がある。
- ④ ESD に関する重要な国際情報の国内への発信、国内情報の英語による国際的発信については、UNESCO から国連に提出された ESD に関する報告及び国連決議について適時に発信できなかった。また、国内情報の英語による国際的発信についても十分に行われていない。今後、ESD に関する重要な国際情報を体系的に発信できる仕組みを全国センターで整えていく必要がある。

2. 支援体制

「ESD 活動支援企画運営委員会（以下「企画運営委員会」）が、総合的な ESD 活動支援方策の検討やその実現に向けた全国センターへの指導・助言を行うための体制が整備されている。」との成果目標に関し、

- ① 企画運営委員会で様々な助言が行われた。ESD 活動支援センターとしてそれらの助言への対応に努めた。
- ② 2019 年度には、これまでの成果を踏まえ、2020 年度以降の ESD 推進ネットワークの効果的・効率的な活動に関する検討を行っていただく方針。

「ESD を推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD 活動に対する支援体制が機能している。」との成果目標に関し、

- ① これまでにすべての ESD 活動支援センター（全国・地方）が開設・運営されている。
- ② 全国規模の協力組織・団体に関し、2016 年度には 11 団体に対して調査を行ったが、2017 年度には 28 団体に調査を拡大した。また、協力組織・団体の活動内容も多様化している。
- ③ 地域 ESD 拠点数は、2017 年度末の 27 から 2018 年末には 67 に増加。2017 年度の地域 ESD 拠点との連携形態表が作成されており、今後、地域 ESD 拠点との連携・協力の進展に関する経年的な傾向を把握することとしたい。また、2019 年度末には、すべての都府県（北海道にあっては道南、道央、道東、道北の 4 圏域）で、少なくとも一つの地域 ESD 拠点が登録され活動しているとの目標に対し、2018 年末時点で全国 34 都道府県で登録が行われている。
- ④ 2017 年度の全国センターの相談対応・ヒアリング件数は 155 件、地方センターの相談対応・ヒアリングの合計件数は 408 件であった。相談対応・ヒアリング件数は、増加傾向にある。今後経年的な傾向を分析することが適切。
- ⑤ ESD の導入または加速につながった好事例の発信に関しては、全国フォーラムや地方センターによる学び合いフォーラム、各種の研修等を活用して好事例の発信に努めている。

3. ネットワーク形成・学び合いの場

「多様な分野で ESD の認知度が向上し、また理解が進み、多様なステークホルダーの間で経験の共有、ESD 推進の協働・連携の関係性が形成・促進されるような学びの場が持たれている。」との成果目標に関し、

- ① 2018 年度の全国フォーラムのアンケート結果から、ESD に関する理解が進んだかとの問に対し、上位 2 項目（とてもそう思う、そう思う）であるとの回答が合わせて

90%、自らの ESD ネットワーク拡大に貢献したかとの問に対し、上位 2 項目であるとの回答が合わせて 85%であり、高い評価が得られた。

- ② 他方、2017 年度の地域 ESD 拠点でのアンケート結果では、「ESD の認知度向上・理解の促進は進んでいるか」との問に対する上位 2 項目（とてもそう思う、そう思う）の回答は合わせて 37%で、目標の 50%に達していない。これは、地域 ESD 拠点の登録を開始してから間もないことも一因と考えられるため、これらのデータは経年変化をみるためのベースラインデータとして活用することが適切と考えられる。

「地域の様々な課題への取組や政策に ESD の視点と手法が取り入れられていると同時に、多様な学びの場とそれを支える政策に ESD の視点と手法が組み込まれ、学びの質を高めている。」との成果目標に関し、

- ① 2017 年度の地域 ESD 拠点でのアンケート結果では、「ESD 活動支援センターや地域 ESD 拠点の活動により地域の多様なステークホルダーの間で連携や協働が進んだか」との問に対する上位 2 項目の回答は合わせて 37%、「ESD 活動支援センターや地域 ESD 拠点の活動により、地域の様々な課題への取組や、教育・学びの実践に、ESD が取り入れられる例が増えたか」との問に対する上位 2 項目の回答は合わせて 40%で、いずれの場合にも目標の 50%に達していない。これは、地域 ESD 拠点の登録を開始してから間もないことも一因と考えられるため、これらのデータは経年変化をみるためのベースラインデータとして活用することが適切と考えられる。

4. 人材育成

「既存の研修等を活用し、多様な場で ESD 研修が実施されている。」との成果目標に関し、

- ① 2017 年度の地域 ESD 拠点でのアンケート結果によれば、全国センター、地方センターによる研修等に加え、27 拠点合計で 282 回 9,650 名の研修が行われている。ただし、このデータについては改善の余地があるため、2018 年度アンケートでは調査項目の改善を図る。

「多様な分野・セクターに ESD を推進する多世代の人材が育成され、活動の場を広げている。」との成果目標に関し、

- ① 2017 年度の地域 ESD 拠点でのアンケート結果では、「ESD 活動支援センターや地域 ESD 拠点の活動により ESD 実践者が増えたか」との問に対する上位 2 項目の回答は合わせて 40%で、目標の 50%に達していない。これは、地域 ESD 拠点の登録を開始してから間もないことも一因と考えられるため、これらのデータは経年変化をみるためのベースラインデータとして活用することが適切。
- ② 好事例の発信に関しては、2018 年度には、例えば全国フォーラムでは地域 ESD 拠点を中心に 13 件の好事例の発表が行われた。

地域 ESD 拠点の登録開始から間もない 2017 年度末には必ずしも大きな成果が得られたとの評価が得られていないが、その後のウェブサイトにおける発信数の増加とそれに伴うアクセス数の増加、地方センターや地域 ESD 拠点による様々な活動、地方センターを含む現場の方々や識者の声を反映した全国フォーラムの構成等により、2018 年末までには ESD 推進ネットワークに対する評価は大きく改善したと判断される。今後、引き続き経年的傾向を調査し、ESD 推進ネットワークの評価の改善を図ってまいりたい。